

登録コード:MH501100 開講年度:2026		授業科目区分	学科共通専門科目 必修(看護・検査) 選択(理学・作業)
科目名	健康科学概論【20M以降】 Introduction to Health Sciences		
担当教員	下里 誠二 他 五十嵐 久人・山内 一由・佐藤 奈保・杉山 暢宏・木下 愛未		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	全専攻/1年 後期 月曜・2時限		
単位数、講義室	2単位	多目的講義室 保健学科211講義室	遠隔授業科目 該当
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	⇔	授業の達成目標
	MH20カリ・保健		
	多くの学問分野に接して幅広い教養と探求的、創造的思考を身に付け、保健・医療の専門職者として必要な学修課題や目標を自ら設定し、常に課題の克服や目標達成に取り組むことができる。	⇔	保健・医療職者に必要な「健康」を支える社会制度・サービスと「健康科学」の基礎的知識を理解し、自身が目指す専門職が果たすべき役割や支援の方向性を説明できる。
	MH25カリ・保健・看護、MH23カリ・保健・看護		
	《基礎的・専門的な知識と技能》看護専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。	⇔	保健・医療職者に必要な「健康」を支える社会制度・サービスの概要を説明できる。
	MH25カリ・保健・検査、MH25カリ・保健・理学、MH25カリ・保健・作業、MH23カリ・保健・検査、MH23カリ・保健・理学、MH23カリ・保健・作業		
	《基礎的・専門的な知識と技能》保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。	⇔	保健・医療専門職者に必要な「健康科学」の基礎的知識を発達段階や実践の場での違いから概観し、支援・介入の多面性を理解できる。
授業で学べる「テーマ」	MH25カリ・保健・看護、MH25カリ・保健・検査、MH25カリ・保健・理学、MH25カリ・保健・作業、MH23カリ・保健・看護、MH23カリ・保健・検査、MH23カリ・保健・理学、MH23カリ・保健・作業		
	《科学的探求力》変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	⇔	変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、保健・医療専門職者の視点から、自身が目指す専門職が果たすべき役割や支援の方向性を説明できる。
授業で学べる「テーマ」	多文化協働、健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	本授業は、これから保健学科で学んでいく様々な科目の横断的なプレビューであり、保健医療の専門職をめざして勉強する学生にとって、必須の入門的な授業です。保健学科4専攻の教員が、オムニバス形式で講義を行います。またゲスト講師による講演もあります。それぞれの教員による多様なキーワードとの関連で、保健医療福祉分野における健康科学を多角的・科学的に把握・検討することを目的としています。 この授業は1年次前期に学んだ共通教育科目の健康や専攻専門科目を基盤に1年後期の微生物と感染、遺伝と病気 2年次の医療社会学、公衆衛生学、3年次の保健・医療・福祉政策論の基盤となるものです ※本授業は、各担当教員の専門性や保健医療専門職としての実務経験を活かして講義を行います。本授業は男女共同参画に関する内容を含んでいます。		
授業計画	第1回(9月28日)ガイダンス〔下里〕 第2回(10月5日)健康と権利擁護〔下里・木下〕【個別課題】 第3回(10月14日・水)対人関係と健康〔木下〕【個別課題】 第4回(10月19日)元気高齢者と家族の実像〔會田〕【個別課題】 第5回(10月26日)血液検査と健康診断〔山内〕【個別課題】 第6回(11月2日)子どもと健康〔佐藤〕【個別課題】 第7回(11月9日)こころの健康〔杉山〕【個別課題】 第8回(11月16日)ヘルスプロモーション〔五十嵐久〕【個別課題】 第9回(11月26日・木)リハビリテーションとノーマライゼーション〔岩波〕【個別課題】 第10回(11月30日)健康関連QOL〔岩波〕【個別課題】 第11回(12月7日)地域におけるヘルスプロモーション〔横川〕【個別課題】 第12回(12月14日)運動とヘルスプロモーション〔横川〕【個別課題】 第13回(12月21日)健康日本21〔横川〕【個別課題】 第14回(1月4日)自宅で暮らすということ〔進藤〕【個別課題】 第15回(1月18日)薬害に関する講演〔ゲスト講師+下里〕【個別課題】【授業アンケートの実施】 第16回(1月25日)【期末レポート】 ※諸事情により、担当教員の順番や内容等が変更する可能性があります。		
授業の進め方	1) オンライン講義 ・受講者数の関係上、効果的に授業を進めるために、原則、オンライン講義(ライブ・同期型もしくはオンデマンド・非同期型)で実施します。 ・「ライブ・同期型」もしくは「オンデマンド・非同期型」のどちらで実施するか等の詳細は、各担当教員から事前にeALPS上で連絡があります。 ・本科目指定の講義室内で、各自所有の情報端末から「イヤホン」を用いて受講することは可能です(ただし講義終了後は、すみやかに退室して下さい)。 2) 配布資料 ・講義の前日までには配布資料をeALPSにアップするので、各自が印刷・ダウンロードして臨んで下さい。		

授業の進め方	3) 各講義後の課題 成績評価にも記載したとおり、各講師から、毎回、課題が課されます（小テスト、リアクションペーパー等）。各教員の指示に従って下さい。問合せは、必ず担当教員宛にお願いします。
テキスト、教材、参考書	【テキスト】 特定のものは指定しません。各授業で講師が関連資料を配布します。 【参考書】 1) 伊藤公雄, 佐藤哲彦, 薬害とは何かー新しい薬害の社会学, 初版, 2023年。 2) 医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団(編集), 知っておきたい薬害の教訓ー再発防止を願う被害者からの声, 初版, ISBN9784840813792, 薬事日報社, 2012年。 3) 奥田純一郎, 深尾立, 製薬と日本社会ー創薬研究の倫理と法ー, 初版, ISBN9784324107157, ぎょうせい, 2022年。 4) 新ヶ江 章友, 日本の「ゲイ」とエイズ: コミュニティ・国家・アイデンティティ, 初版, ISBN9784787233578, 青弓社, 2013年, 3235円。 5) 美馬達哉, リスク化される身体 現代医学と統治のテクノロジー, ISBN9784791766673, 青弓社, 2012年, 5510円。 6) エリオット・ソーバー, 松王政浩(翻訳), 科学と証拠ー統計の哲学 入門ー, 初版, ISBN9784815807122, 名古屋大学出版会, 2012年, 5060円。 7) カール・ライムント・ポパー, 大内義一, 森博(翻訳), 科学的発見の論理(上), 初版, ISBN9784769902546, 恒星社厚生閣, 1971年, 3520円。 8) カール・ライムント・ポパー, 大内義一, 森博(翻訳), 科学的発見の論理(下), 初版, ISBN9784769902553, 恒星社厚生閣, 1972年, 3520円。 ※上記以外は、各講師が講義の際に参考文献を指定します。
成績評価の方法	成績評価は、1) 個別課題80%、2) 期末レポート20%の配分比による合計点で実施します。 1) 個別課題 ・各回の授業を30点満点として(計450点満点)、各講師から課される小テストやリアクションペーパー等で、各講師が評価します。 2) 期末レポート ・50点満点で評価します。wordファイル等で下書きをしてから、eALPS提出ボックスにコピーして下さい(誤入力等による再提出は受け付けません)。 ・期末レポートの課題は、「全授業をふり返り、印象に残った学びの中での『キーワード』を踏まえ、自身が将来の臨床実践でどのように活かすつもりか、具体的・論理的に600字以内で書きなさい」です。
成績評価の基準	1) 成績評価の方法の合計点にもとづき、判定基準は、90-100点(秀)、80-89点(優)、70-79点(良)、60-69点(可)、60点未満(不可)とします。 2) 個別課題 ・各担当教員から提示された評価基準に準じます。 3) 期末レポートは、下記の5項目(各10点)で評価します。 ①形式・方法：指定された方法で提出し、指定文字数の80～100%である。 ②文章構成力・論理性：適切な段落分け、自身の主張に対する理由が客観的・論理的に提示されている。 ③文章表現力：誤字脱字がなく、主述関係が明確で適切な文章表現である。 ④オリジナリティ：独自の視点や問題意識をもとに論じられ、読み手に感心・感動を与える内容である。 ⑤提出期限：指定期日までにeALPSに提出されている。
事前事後学習の内容	【事前学習】 次回講義のキーワードをもとに、新聞やインターネット等から関心のある情報（ニュースなど）を1つ以上もって臨んでください。 【事後学習】 事前学習と講義を振り返り、専門職を目指す者としての理解・解釈がどのように変化したのかを確認して下さい。可能ならば、クラスメイトとディスカッションしたり、関連書籍を読んだりして下さい。 本授業の単位修得には90時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします：授業時間30時間（2時間×15回）＋自己学習時間60時間（4時間×15回）＝90時間
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	・本講義は、毎回授業に出席し、担当テーマに関する課題に積極的に取り組むことを重要視します。 ・担当テーマの講義に関する質問は（遅刻・欠席、課題提出など）、必ず「各回の講師」にメールで連絡をとって下さい。なおゲストスピーカーと期末レポートについては、下里が対応します。 ・担当教員の連絡先：いずれもオフィスアワーは随時。訪問する際はメールで事前確認をして下さい。【 】は所属先の専攻名略語です。 ・本講義は、毎回授業に出席し、担当テーマに関する課題に積極的に取り組むことを重要視します。 ・担当テーマの講義に関する質問は（遅刻・欠席、課題提出など）、必ず「各回の講師」にメールで連絡をとって下さい。なおゲストスピーカーと期末レポートについては、下里が対応します。 ・担当教員の連絡先：いずれもオフィスアワーは随時。訪問する際はメールで事前確認をして下さい。 【 】は所属先の専攻名略語です。

学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	【看】下里誠二:sshimos@shinshu-u.ac.jp, 【看】會田信子:aida@shinshu-u.ac.jp 【検】山内一由:yamauchi@shinshu-u.ac.jp, 【看】佐藤奈保:naho_sato@shinshu-u.ac.jp 【作】杉山暢宏:nsugi@shinshu-u.ac.jp, 【看】五十嵐久人:higaras@shinshu-u.ac.jp, 【作】岩波潤:iwanami@shinshu-u.ac.jp, 【理】横川吉晴:fhakuba@shinshu-u.ac.jp, 【看】進藤真由美:sndmym@shinshu-u.ac.jp 【看】木下愛未:akinoshi@shinshu-u.ac.jp
------------------------------	---